

1 学校教育目標

- ・広い視野に立ち、深く考える人になろう。
- ・あたたかい思いやりを持ち、心にうるおいのある人になろう。
- ・進んでものごとを行い、力いっぱい努力する人になろう。
- ・健康なからだをつくり、明るい心を持った人になろう。

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○「通いたい・通わせたい・誇れる」学校 (1) 基礎的・基本的な学力の確実な定着と向上を目指す学校 (2) 豊かな心の育成と規範意識の確立を目指す学校 (3) 文武両道を実践し、生徒・保護者・地域から信頼され誇れる学校
○児童・生徒像	○「自らの生き方に自信をもち、社会に貢献できる、本気で取組む」生徒 (1) 毎日の授業と家庭学習にしっかり取組み、自ら向上しようとする生徒 (2) 礼節を重んじ、進んで挨拶することができる生徒 (3) 自他共に大切にでき、自己有用感や自己肯定感をもつことができる生徒
○教師像	○「信頼される」教師 (1) 理論と実践を重んじ、生徒一人一人の能力を伸ばしようとする教師 (2) 職務に真剣に取組み、生徒からも保護者・地域からも信頼される教師 (3) 常に自己を高めるための研鑽に励む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

○ 学校の現状

- (1) 落ち着いた学校生活環境の中で教育活動が行われ、生徒が学校行事や生徒会活動、委員会活動、部活動に熱心に取り組んでいる。
- (2) 教職員が、授業をはじめ学校行事、部活動、地域行事、生徒指導に労を惜しまず取り組んでいる。
- (3) 学習につまずきのある生徒や家庭学習の困難な生徒に対して、学習の場を提供して少人数指導・個別指導を含めた学習支援を行っている。
- (4) 開かれた学校づくり協議会、PTA、地域と連携した活動をとおして、地域とのふれあいや絆を深め、生徒が地域の一員としての自覚と郷土を愛する心情が養われている。

○ 前年度の成果

- (1) 学力向上アクションプランの確かな実践をとおして、基礎的・基本的な学力の定着および向上に向けた組織的な取組は継続することができた。4月に実施した区学力調査結果では、区平均より通過率が2.1ポイント、正答率は0.1ポイント上回った。
- (2) 生徒への学校生活アンケートにおける「信頼」に関する項目での肯定的回答平均は92.8%であり、「学校生活は楽しい」が95.3%、「入学して良かったと思う」が94.7%、「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」が90.3%であった。今後も生徒に寄り添い、大切にしている指導をとおして個々の生徒の意欲や満足感をもたらす学校をめざしたい。

(3) 前年度は中止となった連携小学校3校の6年生児童を対象にした中学校授業体験・部活動体験を実施することができた。連携各校における研究授業では、前年度以上にICT機器を活用した授業展開に取り組むことで、系統性や継続性を意識した実践を行うことができた。

○ 前年度の課題

- (1) 学力の定着と向上を図るため、学力向上アクションプランの効果的な計画と確かな実践を図り、教師全員が足立スタンダードを基にした、特に「めあて」「まとめ」「振り返り」を大切にする授業展開を実践するとともに、学習指導要領に即した指導と評価の一体化の充実と、ICT機器等を効果的に活用した授業力の向上と家庭学習の充実をめざす。
- (2) 生徒の主体的、積極的な活動をとおして自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、将来の夢や目標をもち、実現に向けて努力する姿勢を育成するキャリア教育の充実を図る。
- (3) 次年度の研究主題を「小中連携による9年間を見通した教育の推進～見通しをもって、主体的に学ぶ児童・生徒の育成～」とし、学習指導要領に伴う指導と評価の一体化を念頭に置き、生徒たちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を育んでいく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプランの効果的な計画と確かな実践	○	○	○	○	○
2	教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上	○	○	○	○	○
3	小中連携による義務教育9年間を見通した教育の推進	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプランの効果的な計画と確かな実践							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題			達成度 ◎○△●	
学力向上を図るためのアクションプランの効果的な計画と確かな実践		<ul style="list-style-type: none"> ・年度末令和4年度区学力調査正答率 70% ・令和5年度区調査通過率 70% 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度の区調査の通過率3科平均 69.0% ・年度末区調査を活用した到達度調査3科平均 60.6% 		<ul style="list-style-type: none"> ・苦手なことにも取り組もうとする姿勢に課題があることが区意識調査、学校評価から判明した。 ・現在実施している取り組みを精査、強化し、課題解決に臨みたい。 			△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

継続・改善	家庭学習ノートによる家庭学習習慣の定着	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心	通年	<p>【指導体制】担任あるいは学年所属教員</p> <p>【取り組み内容、ねらい、目的】毎日の家庭学習習慣の定着を図るために3教科を中心とした課題を用意する。子どもたちはその課題に取り組むか、自ら設定した課題を家庭学習で取り組む。また、生徒用、保護者用の「家庭学習の手引き」(5教科)を作成・配布し、具体的な学習のヒントや関わり方のポイントを示し、家庭と連携した取り組みを行う。さらに、「AIドリル」を活用した家庭学習の取り組みを進める。</p>	<p>担任を中心とした学年教員がノートや課題提出状況の点検を行い、進捗状況を確認する。</p> <p>保護者が家庭学習の様子を確認する機会を設ける。</p> <p>「AIドリル」の学習履歴で学習状況を確認する。</p>	<p>通年で80%以上の家庭学習ノートの提出をめざす。</p> <p>年2回、保護者と家庭学習ノートの様子を確認し、学習の取り組み方について話し合う。</p> <p>年間で個に応じた活用が見られる。</p>	<p>生徒へのアンケートの結果から、家庭学習習慣の確立は全校平均71.0%であり、達成できたとは言いがたい。特に1年生は62.1%であり、今後系統だった粘り強い指導が必要である。</p> <p>AIドリルは、ワークブック配信による取り組みを行っている。</p>	<p>家庭学習習慣の確立については、学年・学級での指導強化が必要である。</p>	△
継続・改善	金曜日朝テスト 放課後学習	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心	通年	<p>【指導体制】担任あるいは学年所属教員</p> <p>【取り組み内容、ねらい、目的】毎週始めに範囲や課題を配布し、その週の金曜日の朝読書時間にテストを実施する。内容は基礎・基本的な内容とし、基準点に達しなかった生徒は翌週の放課後学習対象生徒となる。</p> <p>放課後学習では金曜朝テストを合格するまで学習を続ける。また、1学年においては、中1夏季勉強合宿用問題集を活用し、生徒の学習定着状況把握など継続的な取り組みを行う。</p>	<p>放課後学習で、前週の朝テストの内容や課題が解けるようにする。</p>	<p>漢字や計算、英単語コンテストの予習という側面もあるので、各種コンテストにおいて合格率90%以上をめざす。</p>	<p>金曜日テスト、放課後学習については予定通り実施することができた。</p> <p>各学年のコンテスト合格率90%達成は、教科により達成できないものもあったが、合格を目指し、粘り強い指導をすることができた。</p>	<p>金曜日テスト、放課後学習は今後も継続して取り組んでいく。</p> <p>各種コンテストは、実施時期について再考していきたい。</p>	○

継続・改善	自習教室 質問教室	全学年・ 全生徒 国語・数学・英語・ 社会・理科 を中心に 全教科	考查1 週間前 期間	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】家庭での学習環境が整わない生徒、あるいは質問のある生徒を対象に自習教室、質問教室を開く。 【使用教材】生徒各自の学習課題	各学年、実施のお知らせと併せて参加希望を把握する。実施日に各学年教員が参加人数を確認する。	各学年、毎回の出席者を1割以上をめざす。	自習教室、質問教室は予定通り実施した。目標数値は達成することができている。	目標数値を達成し、学習意欲の高い生徒が参加したことは有意義であった。	○
継続・改善	サタデー スクール	自由参加 生徒自らが用意する課題	通年	【指導体制】教員2名+地域の協力者 【取り組み内容、ねらい、目的】毎月1回土曜日の午後に実施する。参加は原則自由であるが、上記2項目の「放課後学習」や授業、家庭学習課題で十分な成果がみられない場合は指名することもある。	実施のお知らせと併せて参加希望書を回収する。また、当日、参加者名簿を作成し、参加人数を把握する。	毎回の出席者を10名以上にする。	サタデースクールに協力していただける地域人材が確保できず、実施できなかった。	次年度以降の実施は厳しい状況である。	●
継続・改善	朝読書	全学年・ 全生徒 国語	通年 登校後 の10分 間	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】読書の習慣を身につけさせることで、集中力や語彙力・読解力の向上をめざす。 【使用教材】生徒各自の持参する書籍	読破した書籍名を各自が記録し、年度末にその量に応じて表彰を行う。	各学級において、全校生徒が読書に親しむ時間を保障する。	予定通り実施することができた。学校司書との連携ができた。	学校司書との連携を強化し、取り組みを充実させていきたい。	○
継続・改善	AIドリルの 活用	全学年・ 全生徒 国語・数学・英語・ 社会・理科	通年 各教科 登校後 の10分 間 放課後	【指導体制】教科担当教員、学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】各教科の取組に加え、金曜日朝テストや放課後学習、家庭学習にも取り入れ、学力の向上をめざす。 【使用教材】AIドリル	「AIドリル」の学習履歴で学習状況を確認する。 放課後学習で、前週の朝テスト内容の課題が解けるようにする。	各種コンテストにおいて合格率90%以上をめざす。 年度末区学力調査正答率70%をめざす。	AIドリルの活用状況は上昇しているが、5教科の中でも活用頻度によって差がある。	次年度以降は、組織的な取り組みを強化していきたい。	○

継続・改善	各種コンテスト	全学年・全生徒 国語・数学・英語を中心に各教科	年間を通じて3回程度	【指導体制】学年所属教員 【取り組み内容、ねらい、目的】漢字・計算・英単語（構文含む）等のコンテストを各学年とも各1回以上実施する。教科担当にとらわれず、アクションプラン上記1及び2項目とも関連させて取り組む。内容の精選と、放課後学習を活用した個に応じた指導による全員合格をめざす。 【使用教材】教師自作問題	コンテストの結果集約から確認する。	各種コンテストの合格点への合格率が90%以上をめざす。	予定通り実施することができた。	90%合格を達成するまで、繰り返し指導を継続していく。	○
継続・改善	教員の授業力向上	全教科・全教員	通年	【取り組み内容、ねらい、目的】学習指導要領に即した指導と評価の一体化の充実を図るための研修を前期・後期の2回実施する。足立スタンダードを基に、「めあて」「まとめ」「振り返り」をふまえた授業展開の実践や成果発表授業及び校内研修などを通じて教員の授業力向上を図る。	研究授業や授業観察 各種調査結果、生徒の授業評価アンケートから確認する。	学校評価アンケートで『わかりやすい』という肯定的な意見が90%以上をめざす。 各種調査結果で前年度を上回る結果を出す。	指導と評価の一体化を目指し、今年度は評価・評定に関する研修を3回実施した。また授業力向上の研修も実施した。「めあて」「まとめ」「振り返り」の実施はアンケート結果の肯定的意見が70～80%であった。	研修については今後も実施していく。	○
新規	ICT 機器の効果的活用	全教科・全教員	通年	【取り組み内容、ねらい、目的】ICT機器を教員全員が効果的に活用し、授業力の向上をめざす。効果的な活用方法について校内研修や教科部会等で共有する。	研究授業や授業観察 各種調査結果、生徒の授業評価アンケートから確認する。	学校評価アンケートにおきICT機器活用に関する項目で肯定的回答85%以上にする。	ICT 機器の活用に関しては、全教員が活用しているが、85%の目標値は達成できなかった。	実技教科の活用率が50～70%である。有効的な活用方法を検証していく。	○
継続・改善	少人数授業	数学の授業	通年	【指導体制】教科担当教師 【取り組み内容、ねらい、目的】個に応じた指導で、基礎的な内容の習得をめざす。	各種調査結果、生徒の授業評価アンケートから確認する。	生徒アンケートにおいて、「わかりやすい」という肯定的な意見を85%以上にする。	85%以上の目標値は達成できなかった。概ね70%の肯定的な結果であった。	少人数授業の利点をより効果的にする授業を展開していきたい。	○

継続・改善	年間指導計画の中に「前年度復習期間」と「学力確認期間」を設ける。	全学年・全生徒国語・数学・英語を中心に各教科	年度当初(全学年)、年度末(2月上旬から中旬)	【指導体制】教科担当教師【取り組み内容、ねらい、目的】各学年とも国語・数学・英語は年度当初の指導計画の中に「復習時間」をもうけ、当該学年指導が円滑に開始できるようにする。区調査の自校採点によって、早期に学習の定着状況を把握、分析、対策を立てる。また、年度末(2月上旬から中旬)に1, 2学年を対象に「学力確認期間」を設け、学力の到達度を確認する。	授業観察 模擬テストを実施し、結果集約から確認する。	区調査を中心に、各種調査結果で前年度の成績、年度当初の成績を上回る。	予定通りに実施することができた。	学年・教科が主体となっており、全校体制で取り組める組織作りをしていきたい。	○
-------	----------------------------------	------------------------	-------------------------	---	-------------------------------	------------------------------------	------------------	---------------------------------------	---

重点的な取組事項－2		教師の人権感覚と意識の高揚による生徒指導力の向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
確かな人権感覚に基づく生徒と教師との信頼関係を基盤にした指導とキャリア教育の充実		学校評価アンケートから「信頼度」を示す項目で肯定的回答平均が90%以上と「進学や就職などについて、自分の将来について考えている」の項目で肯定的回答平均が80%	自分の将来について考えている生徒については、3年生は81.8%であったが、1、2年生は60%台後半であった。	系統的なキャリア教育を展開する必要がある。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権尊重の視点で生徒理解に基づく生徒指導と特別支援教育及び教育相談の充実を図る	学校評価アンケートにおいて「生徒の意欲や努力を正しく評価してくれる先生が多い」の肯定的回答が85%	・生徒の心に寄り添う指導を基盤として、Web-QU 調査結果を活用した個々の生徒の学校生活における意欲や満足感、学級集団の状態を把握し、各学級担任と特別支援教室巡回教員との連携した生徒指導や教育相談に活かす。	Web-QU の研修を2回実施し、データに基づく学校や学級に対する満足度を分析した。その結果、支援の必要な生徒とその手立てについて具体的に指標をつくることができた。特別支援教室巡回教員との連携した生徒指導や教育相談を実践していく。	アンケートの質問項目を変更したため、数値目標の客観的評価はできないが、生徒理解や特別支援教育に対する組織的な対応力は向上した。	○

チェンジ&チャレンジの姿勢で活動する生徒の育成とキャリア教育の充実	学校評価アンケートにおいて「積極的な活動」や「将来について考えている」に関連する項目の肯定的回答平均 80%以上	・生徒会、委員会活動や学校・学年行事、部活動の積極的な参加と活動の充実をとおして自己有用感、自己肯定感を高め、将来への夢や希望に向けて努力する姿勢を育成する。	将来について考えている生徒の割合は、前述の通り達成できていない。「生徒会活動・委員会活動・係活動など、責任をもって活動している」は概ね 90%が肯定的な回答をしている。	責任感や誠実さは、育っており、今後は自己肯定感を高める取り組みと系統的なキャリア教育により将来への夢をもたせていきたい。	△
より良い学校生活を主体的に考え、礼儀と規律ある生活ができる生徒の育成	学校評価アンケートにおいて「礼儀や規律ある生活」に関連する項目の肯定的回答平均が 90%	・生徒会や委員会活動の主体的な活動をとおして、より良い学校生活に対する生徒の意識を高める。	「あいさつ、服装、持ち物などについて学校のきまりを守っている」に対しては 90%以上の生徒が肯定的な回答をしている。	礼儀と規律のある学校生活を次年度も維持していきたい。	○

重点的な取組事項－3		小中連携による義務教育9年間を見通した教育の推進			
A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度	
学習指導要領に即した指導と評価の一体化を踏まえ、小中学校における学習内容の系統性や指導方法の継続性を考慮した足立スタンダードに基づく授業展開を図るとともにICT機器を効果的に活用した授業力向上を図る	学校評価アンケートにおいて授業に関する項目で「わかりやすい」という肯定的回答平均が 90%	数値的な目標達成にはいたらなかったが、小学校との連携は予定通り行われた。指導方法の継続性については共通認識をもつことができた。	中1ギャップ解消に向けて、連携小学校との協力体制を今後も維持していく。	○	
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学習指導要領に即した指導と評価の一体化を踏まえ、足立スタンダードを基にICT機器を効果的に活用した授業実践	学校評価アンケートにおける「めあて」「学び合い」「まとめ」「振り返り」とICT機器活用に関する項目で肯定的回答 85%	・指導と評価の一体化を踏まえ足立スタンダードに基づく授業展開を図るとともにICT機器を効果的に活用した授業を実施する。	ICT機器の活用に関しては、次年度以降、組織体制の構築が必要と感じる。	実技教科の有効的なICT機器の活用やAIドリルの活用向上に向けて組織体制を構築する。	○

9年間の連続性を踏まえた指導内容の系統性と指導方法の継続性のある授業実践	小中連携における教科分科会・研究授業、授業体験において足立スタンダードに基づく授業の実施	教科分科会における指導案検討と研究授業、6年生児童を対象とした体験授業において足立スタンダードを基にした授業展開を実施する。	各教科分科会における指導案検討等の話し合いが充実した形で実施できた。	次年度以降も連携小学校との協力体制を構築していく。	○
中1ギャップの未然防止	6年生児童に中学校授業体験と部活動体験の実施	連携小学校3校の6年生児童を対象とした中学校授業体験と部活動体験を実施する。	11月15日に実施をし、参加した小学生、小学校の先生方から満足度が高い評価をいただいた。	次年度以降も継続したい。	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

コロナ禍を経て、本校の教育活動の在り方は大きな転換点にあると言える。「文武両道」を掲げ、実践してきたが、様々な面から現状を維持していくのが困難な状況にあると言わざるを得ない。

区意識調査や生徒の学校評価から、「不得意なこと、苦手なことでも自ら進んで取り組もうとしている」の質問に対し、肯定的な意見は平均70%であったが、「そう思う」と自信をもって答えた1年生はわずか6.9%であった。また、「わからないところはそのままにせず、わかるまで努力をしている」の質問に対しても、同様に肯定的な意見は70%を超えているものの、「そう思う」と答えた1年生は、13.8%であり、2、3年の半分以下であった。小学校中学年から高学年にかけてコロナ禍のため、集団での活動が制限され、6年生から様々な取り組みが始まった1年生は、「我慢」を強いられ続けた2、3年生とは育成された資質がやや異なる傾向にあると考える。

これらのことから、学力向上を図るためのアクションプランの効果的な実施をしていくためには、生活規律、学習規律の確立が必要である。何事も粘り強く、繰り返し指導していくという、学校教育の原点に立ち返った指導が指導者側にも求められる。

次年度に向けて、現在行っている「金曜日テスト」と、その結果を踏まえた補充学習は継続し、基礎基本の知識の定着を図りたい。また、GIGAスクール構想実現に向け、教育活動にICTを積極的に活用し、数年かけて効果検証を図りたい。同時に教員の授業力向上に向けた研修も充実させていく。

今年度は、欠員が生じたままの状態であったが、本校教職員は生徒の健全育成のために努力をしていた。そのため、時間外勤務時間が80時間を超える教員は（時期により差異はあるが）平均10～20%超である。「教員の働き方改革」実現のためにも、教育活動の中で、本来学校が行わなくてもよい活動に関しては、大幅な見直しを行っていく。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

安定した雰囲気の中で日々の教育活動が行うことができたのは、保護者や地域の皆様が、本校の教育活動に協力的であることに他ならない。温かく見守っていただいたことには感謝しかない。令和6年度も保護者・地域の皆様の協力のもと、様々な教育活動を展開する予定である。

(3) その他（学校教育活動全般について）

今年度の客観的な数値データと、日々の学校生活で感じる生徒の変容を鑑み、令和6年度の学校経営方針に活かしていきたい。